

平成30年度当初予算（一般会計）各部予算要求の状況に対する意見回答

受付順	各部の主要事業	所管課	意見	平成30年度当初予算案における対応状況及び市の考え方・今後の方針
1	(仮称) 中央保育所整備事業	こども課	<p>福祉部が要求している「(仮称) 中央保育所整備事業」は必要性がないため、予算計上は不要と考える。その理由は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「北本市子ども・子育て支援事業計画の中間見直し」によれば、将来の児童数は減少に向かっており保育の利用量は減少することが見込まれる。なお、現況は市内の各保育所は既に定員未充足の状態である。 ・「公立保育所の再編に関する基本方針」で示された栄保育所を中央保育所に再編し中央保育所を建替える計画は中止し、公立保育所の数を削減する。 ・公立保育所定員減少の受け皿として民間保育園や認定こども園を活用することにより、公立保育所にかかる経費の削減が可能となり、北本市の厳しい財政状況の改善に貢献できる。 ・民間保育園は、「最低基準」で運営しているため、職員の処遇や職員配置数が公立保育所に比べて低くなっており、労働環境が恵まれないため求人が集まらず人手不足が慢性化している。そこで、公立保育所にかかる経費を民間に充てることにより、職員の人数を増やすことができ、労働環境が改善し、市民に対して一層質の高い保育の提供が可能となる。(公私格差の是正と予算の効果的執行) 	<p>国で予定される幼児教育の無償化により、保育利用者数が2020年度より大きく変化する可能性が生じたため、中央保育所については、その状況を踏まえながら取組を進めていきます。</p> <p>また、2020年度からの5年間を対象とする、新たな子ども・子育て支援事業計画の策定を今後に予定していることから、その際には市内全体での保育の需給バランスや、民間保育園も含めた市内全体の保育の必要量についても合わせて検討していきます。</p> <p>当初予算対応状況：計上せず</p>
2	(仮称) 中央保育所整備事業	こども課	<p>「福祉部・(仮称) 中央保育所整備事業」に対して意見を述べさせていただきます。</p> <p>少子化が進んでいる中、民間保育園が多数あるにも関わらず新しい保育所を建てたとしても、入所を希望する子どもが減少した際にはその建築物はどのように利用していくのでしょうか。</p> <p>また、中央保育所整備事業に考えられている予算は非常に大きいものです。その予算を民間保育園・幼稚園・認定こども園の整備費・運営費に回し、今現在ある建築物・環境+aで子どもを受け入れていくことで、コストを抑えることが出来ます。そしてその差額で、北本市に子どものいる世帯が集まるような政策(駅前に商業施設を誘致するなど)を打ち立てて頂きたいと思えます。</p>	同上
3	(仮称) 中央保育所整備事業	こども課	<p>「北本市子ども子育て支援事業計画の中間見直し」を見ると、今後の児童数は減少していくとなっております。そうなれば、民間の幼稚園、保育園、認定こども園で十分に児童の受け入れは可能であり、運営する上で経費が大きくかかる公立保育所は今後閉所しなければならなくなります。よって、福祉部が要求しています「(仮称) 中央保育所整備事業」の予算計上は不要であると考えられます。</p>	同上
4	公共施設マネジメント実施計画策定事業	契約管財課 教育総務課	<p>現在、栄小学校校区で5歳児を育てています。</p> <p>子供が小学校に上がるタイミングでの、他市または他校区への転出を検討しています。</p> <p>それは、栄小の児童数が非常に少なく、一度いじめにあつたらどのように学校生活を送らせればよいのか、学校ならではの大人数での共同生活を体験できないなど教育環境に不安があるからです。</p> <p>栄小学校区では私と同じように、小学校に上がるタイミングで転出する家庭も多いと聞きます。</p> <p>財政状況が厳しいと伺っています。</p> <p>家庭や子供のためにも、財政のためにも、学校の統廃合をしっかりと検討していただきたいです。</p>	<p>北本市では、学校や公民館をはじめとする多くの公共施設で老朽化が進み、公共施設の維持管理に多額の費用を要している状況です。一方で、人口減少時代を迎え、税収の落ち込みが予測され、このままでは現状どおりに公共施設を維持していくことが困難となることが予測されるため、平成28年度に公共施設の将来のあり方を定めた「公共施設等総合管理計画」を策定しました。今後、この計画の方針に基づき、公共施設の複合化や統廃合等を行い、公共施設の機能や規模の適正化に取り組んでいきます。</p> <p>また、児童生徒数の減少傾向が続く中で、より良い学校教育を実施していくため、適正規模となる学校の基準を定め、今後の教育環境整備に向けた検討を行います。</p> <p>当初予算対応状況：公共施設マネジメント実施計画策定事業12,442千円 学校規模適正化等基本方針策定事業182千円</p>

その他、予算編成に対する意見

受付順	各部の主要事業	所管課	意見	平成30年度当初予算案における対応状況及び市の考え方・今後の方針
①	-	学校教育課	<p>小学校の図書館に専任の人が常時いるように予算をとってください。これから人生を歩んでいく子ども達に、心身の栄養、娯楽になる本との出会いをつくって欲しい。</p> <p>図書館はいつ行っても開いていて、本が読め借りられるところであって欲しいのですが、ただの器としての図書館では使われません。使い方が分かりません。</p> <p>専任の人が居て、子どもと本の仲立ちをして欲しい。</p> <p>専任の人に週5日いていただきたいのですが、せめて週3日られる予算を取ってください。お願い致します。</p> <p>健康維持、惚け防止のための事業、これは行政に頼らなくても、本人、各個人の自覚でできることなので、もし、予算に余裕があれば行ってほしい事業です。</p>	<p>北本市では、北本市教育振興基本計画にのっとり、学校図書館教育の充実のため、教員が担当する学校図書館教育主任、司書教諭の他に、学校図書館指導員を北本市全小・中学校に配置しています。</p> <p>学校図書館指導員の勤務日数については、北本市の財政状況が厳しい中、平成29年度はやむをえず週3日から週2日に減少しました。一方で、新学習指導要領の中では、学校図書館を重視し、アクティブラーニングを進める上で、重要な役割を担うようになります。そこで、平成30年度は、指導員の業務の実態等に鑑み、勤務日数について週2.5日に増加しました。</p> <p>学校図書館指導員については、平成29年度において、北本市中央図書館のスタッフを招き、選書や廃棄、レファレンスサービスなど学校図書館に必要な知識・技能を習得する研修や、学校図書館づくりについて実践例を報告する研修を実施し、専門性を高めています。</p> <p>今後も、学校図書館の充実と学校図書館指導員の資質向上に努めていきます。</p> <p>当初予算対応状況：学校図書館指導員5,460千円</p>
②	-	学校教育課	<p>今年度、小中学校での学校図書館指導員の勤務日が週2日になりました。図書館は人がいないと機能しません。子どもたちにとって一番身近で本と出会う場所が学校図書館です。子どもの心の成長にも、学習の面でも貴重な場所です。来年度は週3日に戻していただき、その先には毎日図書館に指導員配置され、子どもたちの成長を支えてほしいと思います。予算の配分をご検討下さい。</p>	同上
③	-	学校教育課	<p>文庫連絡会では、すべての子どもに読書の喜びを願って、30年以上活動しております。そのためにも、学校図書館・市立図書館の充実も不可欠であると思います。</p> <p>北本市では、学校図書館に臨時職員が配置されて20年以上たちました。初めは数人でしたが、その後、全小中学校に各1名配置され、週3日勤務になりましたが、今年度週2日になりました。</p> <p>全ての子どもが通う小中学校にある学校図書館は、本来、児童・生徒だけでなく教師の教育活動も援助するものです。学校教育に寄与する学校図書館の運営には、教師と同じように学校司書が毎日いることが必要です。</p> <p>是非、学校司書の勤務を週2日から、来年度は週3日にしていただくよう、予算を組んでいただきたいと思います。文部科学省もこの課題には積極的に取り組んでおり、全国的にも学校図書館の充実が子どもたちの学習を支援し、学力向上につながっている報告が多々あります。</p> <p>なお来年は週3日勤務に、その後は発展的に増やしていただきたいと考えております。</p>	同上
④	-	学校教育課	<p>子どもたちの読書離れが深刻な状況となっております。そうした中であって、今まで以上の読書支援が求められています。</p> <p>北本市では、学校図書館の指導員が週3日配置されてきましたが、今年度より週2日となってしまいました。この日数では読書支援どころか、図書の整理に追われているのが現状となっております。</p> <p>子どもが登校する日には、すべて配置していただきたいのですが、せめて週3日にもどしていただけるよう、予算措置をお願いいたします。</p>	同上

⑤	-	学校教育課	<p>私は子ども文庫活動を通して、子どもに本を手渡すボランティアを30年程しております。保育所、小学校でのおはなし会を通して、係わらせていただいています。その中で、図書室の充実（資料）は年々上がってきているのを感じますが、手渡すのは人です。せっかくの宝が埋もれてしまいます。今年度より、図書室の指導員の勤務が、週3日から週2日に減ってしまいました。本来なら毎日人がいて子どもがいつでも利用できる環境が望ましいのですが、せめて週3日に戻していただきたい。予算は国も学校図書館に司書を導入するためのホ諸金も用意しているようです。ご検討ください。</p>	同上
⑥	-	学校教育課	<p>学校図書館の充実と学校図書館補助員の勤務日数を週2日から週3日に戻すための予算をお願いします。</p> <p>私は、学校図書館補助員として、平成16年4月から北本市内の小学校に6年間、その後桶川市内の小学校で4年間働いていました。</p> <p>北本市では、学校図書館補助員が平成6年に配置されて以来、20年以上継続されてきた仕事です。子どもと本のつなぎ手として、多忙な教職員にかわり、学校図書館業務の多くを担っています。子どもたちにとって人のいる学校図書館が定着しているのではないのでしょうか。日数が週2日ではこれまでの仕事が出来ません。20年以上積み重ねてきた良い点も継続されませんし、業務の質の低下が心配です。学校図書館は子どもが本に親しむ一番身近な場所です。読書、調べ物、教職員へのサポートなど子どもの成長と学校教育の充実に重要な場所です。有効な学校図書館活用のために、ぜひ補助員の勤務日を増やしてください。</p>	同上
⑦	-	学校教育課	<p>子どもたちの豊かな人間性や確かな学力を育むために、学校図書館は重要な役割を担っていると考えます。政府は2017年度から2021年度の「学校図書館整備5ヶ年計画」において、その実現に必要な地方財政措置を決定しました。その財源規模は5年間で約2350億円です。</p> <p>北本市では市内の小中学校に昨年度まで週3日で配置されていた学校図書館指導員が今年度は週2日となりました。図書館には様々な分野の本や資料がありその有効な活用のためには司書としての専門性と日々適切に図書を提供できる人が必要です。</p> <p>学校図書館がよりよい学びの場になるよう、学校図書館指導員の司書としての専門性と勤務日数の増加についてご検討をお願いします。</p>	同上
⑧	-	こども課	<p>こども課子育て支援係が担当し、中丸保育園子育て支援センターが運営する「地域子育て支援拠点事業」の交付金について、国が示す金額（7,842,000円、29年度）を下回ることがないよう満額を交付されるよう強く要求します。北本市は平成30年度の予算編成方針において、第五次北本市総合振興計画の基本構想における政策の大綱に示す7つの政策に基づくことを示しています。そこでは、「ア子どもの成長を支えるまち」が掲げられています。この方針をしっかり守り、予算の有効活用を実現するために満額の交付を強く訴えます。なお、当該交付金を満額支給していない地方自治体に対しては、満額を交付するよう国から是正の指示が出されていることにご留意ください。</p>	<p>地域子育て支援拠点事業については、あらかじめ事業所より提出された事業計画を基に、市が精査して委託しています。国・県からの補助金は、事業計画と実績に基づいて交付されるため、今後も、子育て支援員の適切な配置、事業の適正な実施に見合った委託料となるよう努めます。</p>